

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400226		
法人名	株式会社 ケアスタッフ		
事業所名	グループホーム みちの木 琴似 2F		
所在地	札幌市西区琴似3条5丁目3-26		
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190400226-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和6年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明確な理念を掲げ、スタッフが介護にやりがいを持って取り組めるよう各ユニットに掲示している。理念や行動指針の中でも、「私たちの笑顔の先にご利用者様の笑顔がある」という考えを大切に、自らが楽しみ笑顔で関わる事でご入居者様との信頼関係を構築し、サービスの質の向上を目指している。平成22年のオープンから近隣の皆様に温かく迎えられ、運営推進会議にご参加頂いたり、町内会行事での交流など、2つの町内会に入会して交流を深めてきた。グループホームは在宅での暮らしの延長ととらえ、食事は手作りを基本とし、栄養や彩り、一緒に作る楽しみ等に配慮し、ご好評頂いている。お一人おひとりのお誕生日に合わせてお誕生会を開催し、ご本人の嗜好を踏まえたごちそうや、その方の人生を振り返るスライドショー、お好きなレクリエーション等、工夫を凝らしてユニット全体でお祝いし、笑顔の引き出しに努めている。その方の生活歴・性格的傾向や、家族の想い等を把握し、ともに家事を行いながらできる事を見つけ、力を発揮していただけるよう工夫している。様々な情報をスタッフ間で共有し、看取りを視野に入れ、その時々で柔軟な対応を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念や行動指針をまとめた『ケアスタッフクレド』とそれらをよりわかりやすく解説した『バイブル』を全てのスタッフが所持し、全社で読み合わせや意見交換の時間『ラインナップ』を設けて共有を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩では地域の方の庭の花を見せて頂き、挨拶をするなど日常的な交流がある。敷地内の雑草取りをボランティアで行ってくれる方や、火災時の緊急連絡網に入って頂いている方もいて、声を掛け合える関係性がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以前は運営推進会議の中で勉強会を開いたり、地域の方からお身内の支援方法の相談を受ける事があった。制限緩和に伴い、庭先での活動等を通じ、近隣の方に関わりを目にして頂くよう工夫している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ以前は地域の方やご家族、ご入居者様が一堂に会して、スライドで活動報告を行い、手作りのお菓子を試食して頂き、ご意見を伺っていた。現在は地域包括支援センターの職員に写真で活動報告をし意見を伺っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	確認事項等は、担当者を通じて問い合わせ、事業所の実情をお伝えしながらアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員は、入社時研修や定期的な研修で事例を用いて身体拘束の弊害について学び、不適切なケアがないか振り返りを行っている。また、全社で介護に関する小説(介護される側・する側の想いを描いた小説)を回覧し、介護される立場だったら…との視点を育てている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修や定期的な研修では事例を用いて虐待に繋がる危険性を学び、不適切なケアがないか振り返ることで防止に努めている。ご入居者様対応で困難を感じた際は、ミーティング等を行い、より良いケアを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などにも参加するようにしており、内容をまとめて発信したり、資料を回覧する等工夫して、スタッフへ周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて一つひとつ読み上げて説明している。契約後も質問にはいつでも丁寧にお答えするよう努めている。改定の際等は、電話や書面だけでなく来訪時に説明し、疑問点が残らないよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リーダーや計画作成担当者から、日常の様子や体調変化等、電話やおたよりでこまめに報告し、ご家族の想いを確認しながらケアに当たっている。ご意見・ご要望は上司へ報告し、会議で共有を図り、運営に生かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、会議等で事業所の状況を把握し、個別の面談を行ったり、事業所で状況確認を行っている。意見や提案を反映させながら、それぞれの課題を踏まえて業務改善に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、会議やリーダーとの面談でスタッフそれぞれの状況を把握し、個別の面談を行ったり、事業所で直接声を掛けている。リーダーからのスタッフ一人ひとりの評価も含め、総合的に把握した上で、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、会議や面談、リーダーからの報告等で、一人ひとりの状況把握に努め、今必要な研修内容や学びを見極めながら、トレーニングの機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	民介協や日本認知症GH協会等に所属し、必要な情報を会議等で発信・共有し、サービスの質の向上に努めている。職員は、民介協の事例発表会に参加したり、全国規模のリモート研修に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やケアマネ等からの情報を踏まえ、ご本人と事前に面談する機会を設け、困りごとや不安、その方の希望・要望の把握に努めている。入居当日は、リーダーを中心に傾聴に努め、関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	リーダーや計画作成担当者を中心にご家族の話を聞き、ご入居までの経緯や生活歴、ご家族との関係性等をスタッフ間で共有している。来訪時は声掛けし、不安な事・要望など表出しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ等からの情報、ご入居前の暮らしを踏まえ、現在のご本人の状態をご家族と共有し、必要な支援を見極めるようにしている。ご家族に協力して頂きながら、ともにご本人を支える視点を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の肉親のような気持ちで接し、お互いが笑って過ごせるような関係を築いている。一緒に家事を行い、時にはやり方を教えて頂いたり、昔話に耳を傾け、人生の大先輩として尊敬の念を持って関わりを深めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係性に配慮し、共にご本人を支えて行けるよう、ご家族と相談し、ケアや関わりの提案をしながら関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切なご友人やご親戚等との面会を支援していたが、コロナ禍はできない事が多かった。電話を取り次いだり、上手く話せない時は状況をお伝えしたり、手紙のやり取りを支援し、関係性の維持に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士と一緒に過ごせるよう、関係性を見極めて関わりを支援している。共通の話題を提供し、行事やレクリエーションではいつもと違う仲間と楽しめる場面を提供したりと工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族や知り合いからのお問い合わせやご入居の相談が多くある。お看取りまでの支援が多く、その後の支援につながるケースは少ない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族に、生活歴やご本人の嗜好などのアセスメントシートにご協力いただき、それをもとにプランを立て、支援しながら関わりを深めている。ご入居後の様子をスタッフ間で共有し、ご本人の思い・意向の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に記入して頂いたアセスメントシーをもとに、把握に努めている。わからない事は、ご家族やケアマネ等に問い合わせ、アセスメントシートや記録に追記して、スタッフ間で把握・共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録で、ご本人の活動や、その時々表情・言葉などを記録したり、申し送りやミーティングの中で話し合い、現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮らしていけるよう、ご家族とこまめに連絡を取って情報共有を図り、主治医や看護師にも都度状況を伝え、アドバイスを頂きケアに生かしている。モニタリングではスタッフ全員で行い、アイデアを出し合って介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、ケアの内容の他、ご本人の活動の様子や、関わりの中で気付いた事、表情・言葉などを記入し、情報の共有に努め、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方やご家族の状況に配慮し、必要に応じて受診対応を行ったり、看取りの際にはご家族に付き添って頂ける環境作りを工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、近隣の方に火災時の緊急連絡網に入って頂く等で安全対策をしている。ご近所の庭の花を見せて頂いたり、声を掛け合ったりして交流を深め、顔馴染みの関係性を作るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時にホームのかかりつけ医について説明し、ご納得の上で訪問診療を開始している。医療連携を密に図り、その時々ご本人やご家族の希望をもとに適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お一人おひとりの小さな体調の変化や、日常の様子、ケアの現状等を看護師に伝え、こまめに相談してアドバイスを受けている。受診の必要性や、嚥下状態や皮膚状態に合わせたケア等、アドバイスを生かして対応を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、情報をフェイスシートにてまとめて情報提供し、定期的に電話連絡して情報を共有し、安心して治療を受け、できるだけ早く退院できるよう支援している。また、退院時には面談等で状況確認を行い、スタッフ間で共有し、安心につなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に看取りについてのご意向を確認し、書面を交わしている。かかりつけ医からも書面での意向確認があり、それぞれ共有している。ご本人の状況から、主治医・ホーム共に必要性を感じた際にはご家族と3者で話し合う機会を設け、方針の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や、対応・確認のポイント等をまとめて目につく所に張り出している。個々の事例に合わせ、急変時の対応について申し送り、ミーティング等で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練に合わせ、備蓄の場所・数量や、非常用設備・備品の使用方法等を確認している。30cm以下の浸水可能性区域の為、マニュアルを整備している。火災時の緊急連絡網には地域の方にも入って頂いている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの歩んできた生活の理解に努め、認知症という病気を持っても、人生の先輩であることを忘れず、心地良い声掛けを工夫している。性格や好みの活動などに合わせ、自信や誇りを持てるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や行動から思いを汲み取ったり、様々な活動の中で好みの活動や得意な事を引き出すよう支援している。訴えがある時には傾聴に努め、ゆっくりと話しかけ、話したい事を引き出し、希望に添える対応を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床や就寝、食事の時間など、目安の時間に声を掛けながら、体調や状況に合わせてお一人おひとりのペースで対応できるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握し、季節や気温に合わせて、ご本人が好みそうなものを提案し、選んでいただいている。ヘアカットの際は、似合う髪形を提案したり、一緒に鏡を見て「素敵！」とお声掛けする事で、笑顔の引き出しに務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみや生きがいに繋がる大切な事と心得て、栄養だけでなく彩りや香り、盛り付けやバランス、好みや食べやすさ等工夫して提供している。お一人おひとりの出来る事に合わせ食事作りや後片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療と連携し、持病に配慮した食事を提供し、水分量、食事を記録・把握している。その方の状態に合わせ、ミキサー食や刻み食等食形態を工夫したり、食べられる物・好みの物の提供で食事量の安定を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの状態に合わせ、基本的には毎食後実施している。できる方には声を掛け、不十分な場合や、出来ない方は介助を行っている。うがいの出来ない方にはスポンジブラシや飲み込んでも支障ない歯磨き粉などを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録を見ながら適切なタイミングで声掛けしたり、介助の必要な方にはその方の排泄のペースを把握した誘導に努めている。出来るだけトイレで排泄できるよう、体調や排便タイミングにに合わせ、可能な限りトイレ誘導を試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェック表で把握し、適度な運動とオリゴ糖やファイバー飲料などで様子を見たり、主治医・看護師に相談し、こまめな服薬調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	体調に合わせて、気分やタイミングを計り、その方に合った声掛け・時間帯等を工夫している。入浴中はマンツーマンでの会話を楽しんで頂いている。入浴が難しい方にはベッド上で清拭や洗髪、離床時に足浴等工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲労や眠気が見られる時は居室やソファで休息して頂いている。安眠のため、夜間は掛物や室温等、環境整備に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は飲み込み確認に努めている。飲み込みづらい場合は、主治医や薬剤師と相談して薬の形状(粉碎やOD錠)を変更したり、ゼリーを使用している。薬の変更は業務日誌で周知、内容や副作用はファイルで確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や趣味を把握して機会を提供したり、他者との関わりの中で初めての事にもチャレンジして頂いたり、楽しみの支援を工夫している。家事参加の際は、やりがいを持てるような声掛けや、その方に合わせた内容を工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出できない状態が続いていたが、近所の散歩等少しずつ再開している。秋には、2ユニット合同の北海道神宮参りを実施できた。現在、ご家族対応による外出は受診等に限定しているが、感染対策を講じながら徐々に緩和していく予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は数名いる。北海道神宮へ参拝する際には、お一人おひとりにお賽銭を入れて頂いた。できない方は、スタッフが代行し、一緒にお参りすることが出来た。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があるときは支援している。また、ご家族からの電話を取り次いでお話して頂いている。文字が書ける方には、折に触れ手紙を書いて頂いたり、ご家族に手紙を送っていただき、返事を書いて頂く等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清潔や安全に努め、室内の温度、湿度や、日差し・明るさに気をつけている。リビングや洗面所などは、季節感を感じられるような飾りつけを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやイスの配置を工夫し、気の合う仲間と過ごせるよう配慮している。ソファでは人目を気にせずくつろげる配置を工夫し、スタッフルームやキッチン前のカウンター、キッチン内等に椅子を置き、思い思いに過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れているものや趣味の作品、家族や活躍の場面の写真などを飾ってもらい、居心地よく過ごせるよう工夫している。歩行状態に合わせて、「家具の配置やベッドの向きなど動線を工夫し安全に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく、廊下には手すり、洗面所には常時椅子を配置し、歩行が不安定な方に配慮している。お一人おひとりの状態を踏まえ、居室からの動線に家具を置いたり、入口にのれんや表札を付け、安全や分かりやすさに配慮している。		